令和４年５月１日発行（毎月１回１日発行）通巻第693号

林業福島

No. 693

題字　公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長　齋藤卓夫

5
2022

監　　修■福島県農林水産部
表紙の写真■体験・ブナの森を歩く

令和４年度の取組について

福島県農林水産部長
小　柴　宏　幸

皆様には、日頃より本県の森林整備の推進と林業・木材産業の振興に御協力いただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

四月より、福島県農林水産業の施策の基本的な方向性を示した、新しい「福島県農林水産業振興計画」が始まりました。「「もうかる」「誇れる」共に創るふくしまの農林水産業と農山漁村」を基本目標に掲げ、その実現に向け施策を展開してまいります。

まず、福島県森林環境税を財源とした、県民一人一人が参画する新たな森林（もり）づくりにつきましては、昨年度から第四期がスタートし、新しい施策分野により引き続き事業に取り組んでまいります。

森林の再生につきましては、森林の公益的機能の維持増進を図る森林整備とその実施に必要な放射性物質対策を行うふくしま森林再生事業に加え、きのこ原木等の安定供給に向けて、伐採により次世代への更新を図る広葉樹林再生事業に取り組んでまいります。

海岸防災林の復旧につきましては、飛砂、潮害・風害の防止機能や、津波被害の軽減効果など防災機能の早期発揮のため、速やかな完成に努めてまいります。

県産材の利用推進につきましては、昨年十月の国の法律改正を受け、四月に「ふくしま県産材利用推進方針」を改正し、木材利用推進の対象を公共建築物から建築物一般へ拡大したところです。この改正により、木材利用による脱炭素社会の実現に向けて、より一層の県産材の利用推進を図ります。

また、きのこ等の林産物の生産振興につきましては、安全なきのこを生産するために必要な生産資材の導入支援に引き続き取り組むとともに、山菜や野生きのこの出荷制限解除に向けた取組を推進してまいります。

これらの森林・林業施策を支える林業人材の育成につきましては、林業関係者の大きな期待を受け、四月八日に「林業アカデミーふくしま」が本格開講したところです。安全に現場作業を行える人材や、地域の森林経営管理を担うことができる人材の育成に取り組んでまいります。

今後とも、本県の森林再生と林業・木材産業の復興、林業成長産業化の実現に向け、積極的に取り組んでまいりますので、皆様方の一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。

《もくじ》

とびら
令和４年度の取組について
　福島県農林水産部長　小　柴　宏　幸…１
林業アカデミーふくしま
　「就業前長期研修」スタート ……２～６
緑の募金にご協力を!!……７
普及指導員通信……８
フォレストだより……９
苗協だより……10
木の文化を育む㊳……11
木材市況・ふくしま東西南北……12
はなしのひろば・お知らせコーナー……13

林業アカデミーふくしま「就業前長期研修」スタート

福島県林業研究センター

県は、本県の林業の未来を担う杣人（そまびと）を育成するための研修、「林業アカデミーふくしま」を運営し、昨年度より市町村職員や林業従事者を対象とした短期研修を先行して実施してきました。

さらに、これから県内の林業に就業を希望する方を対象とした「就業前長期研修」の令和四年度開講に向け、「林業アカデミーふくしまの運営会議」などで研修カリキュラムやシラバス等の検討を行い、併せて伐倒練習機やハーベスタシミュレーターなど最新の林業機械・ＩＣＴ機器等の整備、講義室の準備を進めてきたところです。

四月八日、内堀雅雄知事と渡辺義信県議会議長のご臨席の下、就業前長期研修開講式並びに第一期生となる令和四年度入講式を林業研究センターで挙行することができ、一年間の研修に胸を膨らませた一期生十四名が出席しました。

始めに伊藤正一林業研究センター所長から研修許可書と貸与品の防護ヘルメットが授与されました。

その後、伊藤所長からの式辞、内堀知事からの告辞があり、知事からは「塔を組むには木を組み、木を組むには木の癖を組み、木の癖を組むには人を組み、人を組むには人の心を組む」という法隆寺宮大工の西岡常一氏の言葉を例に、一人一人の心を合わせた研修生活への励ましがありました。

来賓の渡辺県議会議長からの祝辞に続き、研修生誓いの言葉として、代表の池田結さんからは、「この恵まれた環境で養う高い専門性を活かし、社会に貢献することがこのアカデミーに集う者の使命である」と、研修生活への決意を表明しました。

現在、林業アカデミーふくしまの研修拠点となる新施設の建設が進められています。新施設には、本県の木材加工技術（縦ログ、ＷＯＯＤＡＬＣ、大断面集成材等）も採用しており、第一期生の研修生も新しい施設での研修に期待を寄せています。

今後の研修運営にあたり、研修生の作業技術の習得や現場で必要な資格取得に向けまして、引き続き森林・林業関係者の皆様のご協力をよろしくお願いします。

※研修講座の様子は、「林業福島」に連載するとともに、Ｆａｃｅｂｏｏｋで随時公開してまいりますので、ぜひご覧ください。

林業アカデミーふくしま
Facebook

上：第一期生入講記念写真
下：未来の杣人たち　ーセンター内満開の桜の木の下でー

受講生の紹介

池田　結
西郷村出身

私は自分の将来を想像した時、環境問題について考えることが多くなりました。

その中で林業に関心が向き、今回アカデミーに応募しました。

林業は危険が多いといわれています。そこから、講義や実習等では、当事者意識を持ちつつも、客観的に学ぶことを心がけています。その理由は、先入観により自分の中での林業の立場を狭めないためです。林業は社会的貢献、役割は大きいにも関わらず、一般的に良い印象を持たれる機会が少なく感じます。だからこそ、技術と知識、林業の「今」と「これから」を学び、他の第一次産業と同様に身近な産業であることを伝えていき、環境問題はもちろん、山と人々の距離を縮めるための役割を担っていきたいと考えています。

池田　竜太
塙町出身

私は去年まで大学に在学し、大学三年になる頃は新型コロナウイルスの影響でオンライン授業を実家のほうで受けるようになり、親が経営している林業会社を手伝う機会が増えるようになりました。実際に仕事現場に行ってみて、自然に触れあいながら仕事をするというところに魅力を感じ、林業に興味を持ちました。「林業アカデミーふくしま」で資格取得ができるだけでなく、林業の最先端技術を学ぶことができるため受講を決心いたしました。卒業してからは、家業を継ぐだけではなく、林業を知らない人に林業の楽しさ、すばらしさなど情報を発信していきたいなと考えています。

宇野　太郎
東京都大田区出身

色々な職を経験したからこそ、私はここにたどり着いた気がします。

やってみたい、けど調べれば調べるほど給料面での不安が多く一歩を踏み出せないでいた。そんな時にコロナという流行り病が来たのだ。これが、私を動かした大きな理由ではないだろうか。

いざ、林業という分野に転職するにあたり、調べると問題課題が予想以上に大きいと感じた。だからこそ、その現状を少しでも打開していきたい。それが一滴の雫だとしても後には大きな影響になって変化改善されるきっかけになればと。

林業事業体に就職しながら、現状の林業を学ぶよりいい方法はないかと調べていたら「林業アカデミーふくしま」にたどり着いた。福島県は、私の父の故郷で私にとっても第二の故郷の福島で学びたいと思い応募しました。

数年間は私個人が林業を知り技術を得て行くことを第一優先にはなりますが、福島県が他の都道府県に「福島県の林業を参考にしたい」と思われるような県にするための一員になって行ければと思っています。

大野　瑞希
二本松市出身

私の家は農業と林業を営んでいます。冬のみ林業をやっていて高校生くらいからは手伝いをしていました。最初は重労働でつらいイメージがありましたが、実際にやってみると意外と楽しくやりがいと達成感が味わえました。私は現場に行き機械を操作したりチェーンソーを使う仕事をしていきたいと考えているので、林業についての知識や技術を深く学びたいと思っています。高性能林業機械やチェーンソーなどの扱いを基礎から応用まで身につけたいです。

研修終了後は家業の林業を継ぎ、林業アカデミーで学んだことを十分に生かし地域の森林の再生や福島県の林業の発展に貢献したいと考えています。

大原　武男
埼玉県出身

私は埼玉県出身で、前職は製造業の事務職をしておりましたが、自然の中で仕事がしたいと考え浮かんだ仕事が林業でした。

幼い頃、祖父に連れられて山に入り伐倒作業を手伝った楽しい記憶が蘇って来ました。何気なくネット検索した時に『林業アカデミーふくしま』開講を知り応募致しました。

『林業アカデミーふくしま』は新しい学び舎がつくられ、全国で初めて導入されるハーベスタシミュレータを操作出来る事がとても楽しみです。

チェーンソーや林業機械等の操作技術や専門知識を身につけ、林業のプロフェッショナルとなり、福島県の森林の未来を見据え、林業を通して心身共に安らぎある社会づくりに貢献したいと考えております。

菅野　雅樹
二本松市出身

私はあまり林業について興味がなかったのですが、祖父が林業を行っていて色々な話を聞いているうちに自分でも興味を持つようになりました。

自分でも林業について調べるようになり、ハーヴェスタという重機の動画をみてすごいと思い私でも操縦してみたいと思うようになりました。

祖父のいる会社ではほとんどの人が七〇歳以上で高齢化がかなり進んでおりその問題を解決するには林業の機械化をもっと進め、効率的に作業を行えるようにする必要があると話を聞きました。

林業アカデミーの事前説明会でドローンの展示を見てすごいと思いました。ドローンを使用すれば測量や苗木の植え付けの苗運びが楽になると聞き、ぜひアカデミーでこのような技術を学び、物にし祖父の会社で活躍したいと思います。

小泉　朋也
郡山市出身

私が林業アカデミーふくしまを志望した理由は、現在の林業、そしてこれからの林業の課題をよく知った上で、林業従事者の一人として自分の目標を明確にしたいと思ったからです。何も知らずに仕事を始めるのと、背景を理解して目標を持って仕事をするのとでは効率もモチベーションも大きく変わりますし、後者なら徐々にスケールを広げて様々な課題をクリアできると思っています。その為、私はこの林業アカデミーふくしまという一年間の研修で、知識という大きな力と、チェーンソー等の基礎技術をしっかりと身につけられるよう、日々精進していきたいと思います。

齋藤　宏樹
福島市出身

「社会のために」「福島のために」「自然のために」

人生四〇年間、想いはあるものの、具体的な手段を見つけられずにいました。ある時、自分の名前を一文字一文字眺めていると、「樹」とありました。次の瞬間、インターネットで「福島県　樹木　貢献」を検索しました。そこからは、あっという間に想いが具体的な形となって現れました。

「林業」ということ、「福島は森林資源が豊かな県」だということ、「担い手に泣いている」ということ、そして克服するために「林業アカデミーふくしま」が始まるということ。自分が求めていたことと、福島が求めていることが重なっている。これは「使命なのだ」と直観しました。共に学ぶ研修生と「浜・中・会津」を「林業」でつなぎ、福島が躍動する将来のイメージがそれ以来、頭から離れません。アカデミーで修めた知識・技術・資格をもって、具体的に貢献できるよう邁進します。

田中　裕顕
喜多方市出身

私が林業アカデミーふくしまを志望した動機は、「自然に触れ合える仕事がしたい！」と思い立ったことが始まりです。とは言ってもピンとこず、漠然とした思いで調べていくなかで、林業を見つけ興味を持ち、林業の現状や問題点等も知りました。そして、これからの林業を支える一員になりたいと思いました。

林業はこれから注目される産業だと思っています。しかし、解決していかなければならない問題点も多くある産業です。新しい世代として、林業を盛り上げ、問題を解決する一員となれるよう、ここ林業アカデミーふくしまにて基礎となる知識と技術の習得、また先進技術にも精通した「杣人」になれるよう同じ志の仲間と共に精進していきたいと思います。

野村　勇太
福島市出身

私が福島の林業に興味を持ったきっかけは、幼い頃からキャンプや渓流釣り、スキーなどに触れていたことにあります。大学では情報工学を専攻していましたが、自分が熱意をもって取り組むことのできる仕事は何かということに悩んでいました。大学生の間にたくさんの野山を巡り、この自然のすばらしさを守ることを生きがいとしたいと思うようになりました。林業アカデミーふくしまはそんな思いを抱いている私にとてもぴったりでした。私の夢、目標が二つあります。私の大好きな磐梯山を中心とした森林環境の保全と発展、林業という産業をもっと認知していただく、ことです。そのためにも実りのある一年にしたいと思います。

橋本　裕樹
須賀川市出身

私が林業アカデミーふくしまを志望した理由は、福島県内の放置され手入れが行き届いていない、荒れてしまった森林を整地したり、林業という分野をもっと多くの人に知ってもらうためにどうしたら良いのか高校の時に思っていたところ、進路指導の先生に勧められた学校がここ林業アカデミーふくしまでした。パンフレットなどで調べたところ県内外の方の指導や高性能な機械での学習ができるということなどを知り興味がわき、オリエンテーションなどにも参加しここで多くの知識を学びたいと思い志望しました。原発事故で放射線の影響で行けなかった浜通りの荒れてしまった森林を整地し、きれいになったことをネット上などに発信し多くの人に知ってもらえるよう頑張っていきたいです。

穂積　直人
白河市出身

私がなぜ林業アカデミーふくしまを志望したのかというと、高校二年生だった時、インターンシップで林業を体験し、これまで将来何をしていきたいのか、どのような職業が向いているのかと迷っていたことが、まるで嘘だったかのように「自分は林業従事者となって社会に貢献していきたい」という強い目標が生まれました。インターンシップの時に働いていた方々は、とても輝いており、一人一人が仕事に誇りを持っていて、林業という職業がどれだけ大切でなくてはならない職業なのかを私に教えてくださり、アドバイスを頂いたことで、この施設の存在を知り、私の将来の目標の為にこの施設で仕事を行う上で必要な知識や技術、そして資格等を取得し、近い未来「杣人」となり活動していけるよう、精一杯頑張っていきたいと思います。

松本　健成
会津若松市出身

私が林業アカデミーふくしまを志望した訳は、林業に対する知識や技術を身に付けたいと思ったからです。

私は、県内で唯一林業について学ぶことのできる会津農林高校の森林環境課という学科で林業について学んでいるうちに、自分も林業をやりたいと思うようになりました。ですが今の自分には、知識も技術も足りないと思っていました。そんな中、林業アカデミーふくしまが郡山にできると聞き、ここで林業について学ぼうと思い入校しました。

今後は、知識や技術を身に付けるだけでなく、今の林業が抱えている課題を少しでも解決できるように、そして立派な杣人として活躍できるように頑張っていきたいと思います。

渡部　大斗
会津若松市出身

僕が林業アカデミーふくしまで林業を学びたいと思った理由は福島県、会津地方の林業に貢献したいと思ったからです。僕は四月までは会津農林高校という高校に通っていました。会津農林は福島県で唯一林業を学べる学校であり林業の知識や技術、林業に関する資格を取ることができる学校です。そして僕は会津農林で実習や演習林などで刈り払い機やチェーンソーを扱う中で林業という職業に関わりたいと思うようになっていました。

そして林業の道に進もうと思っていたところ福島県で初めての林業を学ぶことができる学校が開講されるということで僕は林業アカデミーふくしまに通い林業に対する知識、技術を学び研修終了後は林業の道に進み福島県、会津地方の林業に貢献していきたいと思います。

講師の先生から受講生の皆さんへ

福島大学　准教授
藤野　正也

アカデミーで講師を務める藤野です。本業は京都府立林業大学校、高知県立林業大学校、森林施業プランナー研修など、林業関係の研修講師業や林業経営に関するコンサルタント業を営んでいますが、福島大学で准教授としても勤務しています。その縁あって林業のコスト計算や工程管理を教えることになりました。林業では、まずは安全に作業するための知識と技術が必要ですが、次に重要なのがコスト計算と工程管理です。プロですので効率よく仕事することが求められます。手早く木を倒せるだけではアマチュアです。私の講義が役に立つようになるのは五年くらい働いてからなのですが、後で仕事のやり方を変えるのは大変なので、アカデミーの講義に含まれています。

林業は肉体的な負担は言うに及ばず、生物学、機械工学、土木工学、法律、経済、経営など、多岐に亘る分野の知識と技術が求められます。まさにプロフェッショナルの世界です。しかし、教える側は学びの環境を整えることしかできません。学ぶのは研修生自身です。研修生にとっては精神的にも肉体的にもきつい一年間になります。しっかり林業を学ぶと共に、食事と睡眠も十分にとって、心と体も鍛えていただきたいと思います。

緑の募金に ご協力を!!

公益社団法人 福島県森林・林業・緑化協会 緑化推進局

2022年 緑化運動標語「植えようみどり　めざせカーボンニュートラル」

「緑の募金」運動（当初は「緑の羽根募金」）は昭和25年より始まり、休むことなく、今年で73年目を迎えました。

緑の募金は、県内の緑化活動のための貴重な財源です。

当協会は、毎年４月１日～５月31日（春季）と９月１日～10月31日（秋季）を緑の募金運動推進期間として、活動させていただいております。

緑化運動につきましては、その趣旨を皆様にご理解いただくことが重要でありますことから、積極的なPRを行い、「福島の緑を守る」という意識の醸成を高めるため、引き続き活動を進めてまいります。

募金活動は、例年どおり４月１日からスタートしておりますので、皆さまのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

県内各地で行われている緑化活動

小学生による緑化活動

中学生による地方植樹活動

令和４年度 緑の募金運動

こちらからも
募金できます！

緑の募金ホームページ
（ 募金する ＞ をご覧ください ）

１．募金の目標額　70,000,000円

２．募金運動の期間　４月１日～５月31日（春の新緑シーズン）
９月１日～10月31日（秋の紅葉シーズン）

３．事業内容　⑴　森林の整備
県民参加の森林づくりの推進、地方植樹祭・育樹祭の開催等
⑵　緑化の推進
緑の少年団の育成、緑化苗木の配布、学校緑化活動促進、花いっぱい運動、緑の写真コンクールの実施　等

４．お問い合わせ先　**公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会（緑化推進局 緑化推進課）**
〒960-8043　福島市中町5-18　福島県林業会館内
TEL：024-524-1480　FAX：024-521-3246

林業の担い手確保に向けた取組

福島県会津農林事務所
林業普及指導員　飯　島　健　史

○はじめに

会津農林事務所管内には、県内唯一の森林･林業関係学科を有する高校があり、当事務所ではこの高校を主として、林業の担い手確保に向けた林業現場見学や木工体験等の高校生林業見学会を実施しています。

また、令和４年度もこの取組を継続する予定ですが、令和４年４月からの林業アカデミーふくしま就業前長期研修の開講により、若年層の担い手確保がより一層期待されるとともに、労働力確保に関する普及指導や高校生林業見学会の役割が変化すると考えました。そこで当事務所では、林業アカデミーふくしま開講前の令和３年度に、①高校（先生・生徒）、②林業経営者、③林業従業者（高校OB）に対し、管内の担い手確保に関する課題の掘り起こしを目的としたアンケート及び聞取り調査を行いました。

○取組内容

調査は次の項目で実施しました。

Ａ：相手に求めるもの、Ｂ：就業における課題、Ｃ：高校生林業見学会について、Ｄ：林業アカデミーふくしまに期待すること

結果は、下記（表１）のとおりです。

表１　担い手確保に関するアンケート及び聞取り調査結果

		調査項目			
		相手に求めるもの	就業における課題	高校生林業見学会について	林業アカデミーふくしまに期待すること
調査対象者	高校	• 好条件で長く勤められる職場（就業先に対し）	• 林業の労災発生率は高く、生徒に勧めにくい	• きっかけとして○ • 就業の決め手として△ • 専門学科がない学校は就業効果は難しい	• 県内林業事業体からの求人 • 幅広く活躍できる人材育成
	林業経営者	• 緑の雇用で資格取得できるので、特になし（従業者に対し）	• 求人を出しても応募者が少なく、入ってきても離職が多い	• 地元事業体との連携が不十分	• 担い手確保 • 未来の代理人・機械オペレーターの育成
	林業従業者	• 従業員の安全や暮らしを守る意識（経営者に対し）	• キャリアアップ・賃金形態に不安がある • やりがいが必要（職業として）	• きっかけとして○ • 林業従事者から賃金や職場の雰囲気等生きた情報を得られる	• 難しい現場対応の研修 • 機械の練習 • 林業従事者との意見交換の場

雇用する側、される側の両方において、長期雇用したい、されたい、を求めていますが、雇用される側からは賃金面や労働安全面での不安の声がありました。林業従業者にとってはベテラン従業者が低賃金であること、キャリアアップのお手本がいないことが不安材料のようです。また、「会津では冬場の事業量確保や仕事内容の調整が大変で、通年雇用ができない」との声もありました。

林業経営者からの回答にある、「求人を出しても応募者が少なく、入ってきても離職が多い」は林業界全体の課題ですが、今回の調査により、その理由は、労災の発生率が高く、肉体的に大変な仕事が多いことが考えられました。このことから、県や林業経営者が労働安全の推進や高性能林業機械の活用等による負担軽減に取り組み、さらにそれらの取組を林業関係者だけでなく未来の担い手にも周知していく必要があると考えられます。

当事務所が実施する高校生林業見学会については、高校からは「林業へのきっかけとしては良いが、就業の決め手にはならない」こと、林業経営者からは「事業体との連携が不十分である」との指摘がありました。一方、高校側の就業の決定要因としては、「他業界ではインターンシップの効果が大きい」との声があったため、受入可能な事業体と協力し、インターンシップの実施により就業へつながるような内容とする必要があります。

林業アカデミーふくしまに対しては、林業経営者・従業者からは、即戦力となり、将来的に現場の中心人物となる人材育成の場になることが期待されています。高校からは、県内の事業体から求人が増えることで、より良い就業につながることが期待されています。

高校生林業見学会実施状況

○今後の取組

林業アカデミーふくしまの開講により、林業事業体のインターンシップ受入体制の充実が望まれます。今後の高校生林業見学会は、インターンシップ受入先の管内事業体と高校生の直接的なマッチングや林業アカデミーふくしまへの進路選択につながるような内容で実施を検討しています。

また、担い手確保の課題として明らかになった林業労働安全面では、林災防と当事務所で実施している林業現場の安全巡回指導の際に、高校の指導者等にも同行いただき、安全への取組状況を把握してもらうことを検討しています。

林業従事者への聞取り調査

フォレストだより

フォレストパークあだたら「ショップ」「森カフェ」をご利用ください！

公益財団法人　ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

当財団の運営するフォレストパークあだたらでは、中心施設であるビジターセンター内にショップ及びカフェを設置しています。

「ショップ」では、環境負荷を軽減する洗剤をはじめとした日用品、福島県産品にこだわった各種食材、最近のアウトドアブームを意識したキャンプ用品等、バラエティに富んだラインナップを取り揃え、訪れる方のアウトドアライフのサポートをしています。最近では、コロナ禍の影響で増加しているソロキャンパー、デュオキャンパーといった少人数利用に適した商品等も取り扱っています。グループ利用には、食材買い出しの手間を省くため、事前予約制で定番の各種バーベキューセットや朝食用サンドイッチの他、冬季限定のすき焼き、シャモ鍋、餃子鍋といったご準備も可能です。キャンプの醍醐味である野外での料理を手軽に楽しむことが出来ると好評です。

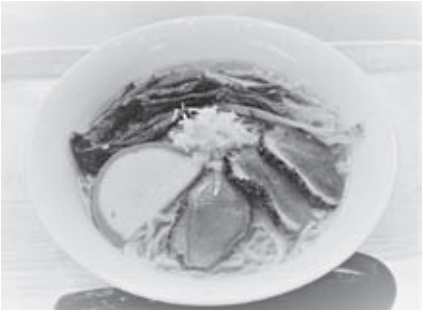
ショップ店内

興味のある方、これからキャンプを始めてみたいと思っている方は一度どんな物が店頭に並んでいるかチェックしてみて下さい。

「もりカフェ」では、木のぬくもりが感じられるオープンスペースな店内で、大きな窓から見える四季の森林を眺めながら、ゆっくり食事がとれるようになっています。地元の良いものをなるべくスタッフ自らが足を運んで厳選し、小さな子供さんやご年配の方にも喜んで食べていただけるメニューを揃えています。スタッフの一押しは、「川俣シャモの親子丼」、「かも塩ラーメン」、「ももふる」となっています。宿泊利用以外の日帰り、立ち寄りでの利用も可能ですので、営業時間を確認の上、ご来店下さい。

もりカフェ店内

コロナ禍の中、様々な制約を受ける日常。まだ以前のような生活に戻ることは難しい状況ですが、感染対策を意識して、安全なアウトドアライフを提供出来るよう、日々スタッフ一人一人が心掛けています。新緑の森を眺めながら、ほっと一息つける時間を過ごしに是非お越し下さい。


かも塩ラーメン

ももふる（品種まどか）

苗協だより

令和４年４月、スギ特定苗木を初出荷しました

福島県農林種苗農業協同組合

特定苗木とは

特定苗木とは、特定母樹由来（特定母樹からの種穂により増殖した）の苗木です。特定母樹は、平成二五年に改正された「森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法」に基づき、森林の二酸化炭素吸収能力を高めるため、特に成長等に優れ、花粉の量が一般的なスギに比べて概ね半分以下の系統を農林水産大臣が指定した品種です。この特定母樹の遺伝的な形質を受け継いだ特定苗木が近隣の県に先駆け、今年度から県内の造林地へ約二八万本の出荷が予定されるようになりました。

特定苗木の種子生産体制

今回、初出荷したスギ特定苗木は、林業研究センター内にある県営ミニチュア採種園から生産された種子から育成したものです。県は国が中心となって品種開発した特定母樹の原種（採種台木）を購入し、平成二七年からミニチュア採種園の造成を開始し、中・浜通り地方に供給するために一施設、会津地方に供給するために一施設の計二ヵ所で採種園の整備を行いました。

特定苗木の苗木生産体制

二ヵ所の採種園のうち、中・浜通り向けの採種園において令和元年から種子が安定的に生産されるようになり、この種子を当組合が県より買い受け、各組合員が二年をかけて育苗してきたものです。特定母樹の採種園造成から採種、育苗、出荷できるようになるまでに約八年間を要し、ようやく出荷が始まりました。

一方、会津地方への苗木の出荷は、採種園の造成が遅かったため、令和八年から種子の供給が開始され、その二年後の令和十年から苗木の出荷が始まる予定です。

特定苗木（特定母樹）の特徴

最近、エリートツリーという言葉をよく耳にしますが、エリートツリーの中から成長量や雄花着花性などの特定母樹の指定基準を満たした品種が特定母樹として選ばれ、次の優れた特徴を持っています。

- 成長量は在来系統の単木材積の約一・五倍
- 幹が通直で曲がりが全くないか、曲がりがあっても採材に支障がない
- 材は剛性に優れている
- 雄花着花性が一般のスギの半分以下　など

特定苗木はこれらの遺伝的な形質を十分に受け継いでおり、出荷前の苗木の段階でも一般のスギと比較して成長が良いことから（写真）、森林施業の中でも過酷な作業である下刈りの年数短縮につながり作業量が軽減されるなど、造林の低コスト化や森林の多面的機能の早期発揮、良質な林産物の供給などへの貢献が大きく期待されます。

また、特定苗木は国のスギ花粉発生源対策推進方針において、少花粉や無花粉品種から生産された苗木と合せて「花粉症対策に資するスギ苗木」とされており、スギ花粉症の軽減にも貢献するとされています。

今後の展開

当組合では県の種子生産体制を補完しつつ、国の情勢の変化にも対応するため、今年二月に県から特定増殖事業者の認定を受け、令和四年度より特定母樹採種園を会津地方と浜通り地方に整備していくこととしました。採種園経営は初めてのこととなるため、今後とも県の指導を頂きながら、関係機関と連携して特定苗木の種子の生産から優良な苗木の供給まで取り組みを進めてまいります。

皆様方には、花粉症対策や造林の低コスト化などつながるスギ特定苗木の利用もお願いいたします。

左側がスギ特定苗木　右側がスギ普通実生（精英樹）苗木　各2年生

木の文化を育む㊳

家を造り人を育てる（株式会社　志木）

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授　阿　部　恵利子

○はじめに

暮らしの道具の多くが木製からプラスチックに替わってしまった現代のライフスタイルにおいて、プラスチックごみの環境への流出は世界的な問題となっています。たくさんのプラスチックを消費する社会を構成している私たちの意識を変えるためにも、木の文化を継承し受け継いでいくことが望まれます。木を五感で感じその良さを体感する機会をつくること、また森林の多面的機能の保全や豊富な森林資源を活用し、その循環を促していく活動は、ＳＤＧｓ達成のための大切な取組みでもあります。

○家づくりと木育

自然素材を用いた家づくりを展開している株式会社　志木　取締役星　英樹さん（会津美里町）は、健康的な住まいづくりのために自然素材にこだわり、建具や家具にいたるまで自社製作をしています。国産無垢材や海泥、植物性塗料などの自然素材を用いた『家族が健康でいられる家づくり』は、無垢の木の特徴を最大限に活かすとともに化学物質過敏症になりにくい快適な住環境を実現しています。

また、星さんは木育活動にも取り組んでおり、子どもたちの木材に対する親しみや豊かな心を育むために、木の良さを五感で体感したり、環境問題について考えたりする機会をもうけ、子どもたちが木育を通して木の良さや特性を学び、環境を守ることの大切さを理解できるよう活動しています。

○木育の推進

二〇〇九年、家づくりを考えている方に無垢の木の魅力を楽しく伝えたい、という想いから星さんの木育はスタートしました。熊本大学で木育推進員の講習を受講し、木育インストラクターとしての社会的使命や知識、技能などを学んだ星さんは、木育推進員として「木に触れて、木を知り、楽しく学ぶ」ノウハウのもと、子どもたちに体の五感を使い、木を通じて遊びの中から様々なことを学んでほしいと願い木育活動を推進しています。

○『あいづ木育・食育クラブ』

「自然素材の家　志木ｓｉｋｉ」が事務局となり、二〇一八年にあいづ木育・食育クラブは発足しました。木育では幼稚園や老人ホームにて木のアロマ体験や木工教室などの出張講座を行い、老若男女が木に親しむ機会をつくっています。

○ものづくりフェア

熊本県の全国ものづくり塾と熊本大学の田口教授と共に定期的に活動している、ものづくりフェアでは、あいづ木育クラブとして『木の年輪パズル』を展示しました。丸太を輪切りにし、数個にカットしたパズルは、あまり木に触れる機会が無い現代の子どもたちにはとても新鮮だったようで、大変好評を得たそうです。「何より、多くの家族がこのパズルで楽しみ、木を学び、楽しんでくれた事がとても嬉しかった」と星さん。

○建築端材の活用

株式会社　志木では二〇一四年より建築現場から出てくる建築端材を欲しい方に無料で提供しています。以前、産業廃棄物として費用をかけて処分していた端材は、木育への活用や端材を活用してくれる方が増えたことで廃棄が減ったそうです。「半端な寸法の木材でも、一般の方から見ればプチ棚材だったり、日曜大工材になったりと結構重宝されています」と星さん。また、カンナくずは近所の農家の方に届けて堆肥として活用してもらっているそうです。「無垢の木は地球を汚す事無く土に還すことが出来るので、子どもたちにビニールやプラスチックとの違いに気付いてもらえたらとても嬉しいです」と星さん。

○まとめ

近年では全国各地において『木育』活動が盛んにすすめられています。ＳＤＧｓ達成に向けての一助となるよう、人をつなぎ、地域をつなぎ、次世代へつながる取組みとして、貴方も木に触れて、木を知り、楽しく学んでみませんか。

年輪パズル

ミニチュア木の家づくり

ビー玉ころがし

木材市況

一月の原木市場への入荷量は、前月比一一一パーセント増（前年比一パーセント増）の二九、一二六立方メートルとなっている。

販売量は、前月比一四パーセント増（前年比二パーセント増）の二九、三五〇立方メートルとなっている。

二月の価格は強保合いとなっている。

素材の価格〈工場着価格〉（2022年２月15日現在）

（単位：㎥当り千円）

区分		形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	中通り地方 当月	中通り地方 前月差	会津地方 当月	会津地方 前月差	浜通り地方 当月	浜通り地方 前月差	県平均 当月	県平均 前月差
一般用材	小	5～9	4.00	並	スギ	11 (10～11)	1	(0～ 0)		11 (11～11)	0	11 (10～11)	1
		10～14		並	スギ	18 (17～18)	1	(0～ 0)		16 (14～18)	0	17 (14～18)	0
	中	14～22	3.00	並	スギ	19 (16～22)	1	12 (12～12)	0	18 (17～18)	1	17 (12～22)	0
				並	ヒノキ	24 (19～30)	0	(0～ 0)		28 (26～30)	0	26 (19～30)	0
			6.00	並	スギ	20 (16～22)	0	10 (10～10)	0	21 (21～21)	0	18 (10～22)	0
				並	ヒノキ	30 (30～30)	0	(0～ 0)		32 (32～32)	0	31 (30～32)	1
		20～28	3.65	並	スギ	16 (16～16)	0	12 (11～12)	0	16 (15～17)	1	15 (11～17)	0
			4.00	並	スギ	16 (15～16)	1	11 (11～12)	0	15 (15～16)	0	14 (11～16)	0
				並	アカマツ	13 (12～15)	0	(0～ 0)		11 (10～12)	0	12 (10～15)	0
			1.80	並	アカマツ	9 (7～11)	0	(0～ 0)		9 (9～10)	0	9 (7～11)	0
外材	米材（定尺）	30以上	10.00	並	米ツガ	(0～ 0)		(0～ 0)		38 (38～38)	0	38 (38～38)	0
				並	米マツ	(0～ 0)		(0～ 0)		38 (38～38)	0	38 (38～38)	0
	北洋材（定尺）	28以下	3.80	並	エゾマツ	(0～ 0)		(0～ 0)		34 (34～34)	0	34 (34～34)	0
			4.00	並	アカマツ	(0～ 0)		(0～ 0)		34 (34～34)	0	34 (34～34)	0
				並	カラマツ	(0～ 0)		(0～ 0)		34 (34～34)	0	34 (34～34)	0
パルプ用材				並	マツ	7 (7～ 7)	0	(0～ 0)		(0～ 0)		7 (7～ 7)	0
				並	広葉樹	10 (10~10)	0	(0～ 0)		(0～ 0)		10 (10~10)	0

区分	形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	会津共販 当月	会津共販 前月差	いわき 当月	いわき 前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	0 (0～ 0)	0	7 (6～ 8)	0
	13～14		並	カラマツ	0 (0～ 0)	0	8 (7～ 8)	0
	16以上		並	カラマツ	0 (0～ 0)	0	10 (8～11)	0

注）１．前月差の△印は値下りを示す。
２．（ ）内は各地域の価格幅、（ ）外は各地域の平均的価格を示す。
３．一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
４．各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

ふくしま東西南北

北限のヒノキ

福島県いわき農林事務所　菅野陽美

学生の頃、ヒノキの天然分布が、福島県いわき市平赤井にある閼伽井嶽（国土地理院地図上表記による）が北限であることを習い、数年前、閼伽井嶽山麓のスギ造林地において胸高直径一メートルは超えるであろうヒノキに遭遇したことがあった。おそらく天然由来のヒノキだろうと思い、撮影したヒノキの写真を執務室パソコンのデスクトップに設定して、眺める日々を過ごしている。

今回、原稿を執筆するにあたり、閼伽井嶽の天然ヒノキを見に行こうと調べたところ、国有林の一部が、現在「赤井岳ヒノキ遺伝資源」として設定されていることを知り、県道赤井停車場線から赤井嶽薬師常福寺の旧参道入り口への分岐付近から歩道を通って不動滝周辺まで行ってみた。不動滝周辺までは歩道が整備されていたが、この付近では天然ヒノキを見ることができず、さらに奥まで行ってみたところ、傾斜三〇度超の斜面の尾根から中段に、スギや広葉樹とともに混生しているヒノキを発見することができた。しかし、急傾斜と不安定な土砂に阻まれ根元部分まで行くのはほぼ不可能であった。なお、厳密な意味での天然とみなすには問題もあるという文献もあり、自生しているヒノキを天然ヒノキと断言することはできないとのこと。

その後、インターネットで調べたところ、旧参道沿いに胸高直径一〇〇センチメートルを超えるヒノキ林を見ることができるようで、これから行かれる方はそちらを強く強くお勧めします。

天然ヒノキ？

はなしのひろば

スズラン

毎年、四月の中頃から、我が家の庭のスズランが咲き始める。この時期、サクラの開花ばかりに気をとられているが、大地から生まれてくるその「白」を見つけると、毎年ながら嬉しくなる。下を向いたかわいい花が白くポツポツと咲き始めると、今年も忘れずに咲いてくれてありがとう、という気持ちになる。むしろ、あなたを忘れていたのは、私のほうだった。

「きよらかな／雪のひかりを／花にして／かおりをすずしく／ひびかせる」（みずかみ・かずよ）函館市郊外のトラピスチヌ修道院の丘には、野生のスズランが咲いているというが、このスズラン、全草に毒をもっている。まるで小さな可憐さを、健気にも自分で守ろうとしているようだ。

我が家のスズランは、誰が植えたか定かではないが、自分が逝った後も「みんなが幸せでありますように」と母が植えていったのかも知れない。そんなことを思いながら、腰をおろし、スズランと向き合っていたら、次から次と色々なことが思い出される。（私は、母から受けた、愛情の半分も親孝行をしなかったのではないか…）ただ、ただ、悔いだけが込み上げてくる。

しかし、こうしてスズランが咲くと、もしかしたら母と交信ができるかも知れない、と気づいた瞬間、スズランの香りとともに、すずやかな音で（そうだね。）と微かに揺れる気配がした。

五月一日は、スズランの日。我が家の「五月の小さな庭物語」である。

（都）

表紙の写真

「体験・ブナの森を歩く」
第18回ふくしま森林・林業写真コンクール　奨励賞
受賞者　片桐勝美さん（喜多方市）
撮影場所：磐梯町八方台登山道
コメント：小学生の子供達が、森と自然を体験し、楽しく歩く姿を撮りました。

編集　福島県
福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究・整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
発行　（福島市中町五番一八号県林業会館内）
発行人　飯沼　隆　宏
陽光社印刷株式会社
（定価　一一〇円）

お知らせコーナー

第34回きのこ料理コンクール全国大会　本県から２名受賞

令和４年３月９日、東京の服部栄養専門学校にて全国大会が開催されました。

福島県の代表者である大八木心美さんがしいたけ等特用林産振興議員連盟会長賞を、室井つな子さんが日本特用林産振興会会長賞を受賞されました。大会は会場での実演は行わず、レシピを基にした代理調理でしたが、開会式と結果発表についてZoomによる配信が行われました。審査員の方々から直接感想をいただける機会を持つことができ、本県代表の２作品においてもアイデアに富むレシピと見た目の華やかさに高評価をいただきました。

調理や審査風景、作品などの詳細は日本特用林産振興会のホームページに掲載されておりますので、是非ご覧ください。

【Zoomによる開会式の様子】

【受賞者一覧】

本　賞	県名	氏　名
林野庁長官賞	長　野	柳澤　樹里
	愛　媛	藤川　幸恵
しいたけ等特用林産振興議員連盟会長賞	**福　島**	**大八木心美**
服部栄養専門学校校長賞	山　形	熊谷　心
	栃　木	三浦　美姫
日本特用林産振興会会長賞	**福　島**	**室井つな子**
	栃　木	江面　空
	群　馬	金子　綺良
	大　分	伊藤　京子
	鹿児島	長山　理那

**【大八木心美さん
しいたけ等特用林産
振興議員連盟会長賞 作品】**

福島県産きのこの
オーツミルクポタージュ
～食からSDGs!
耶麻高そばの実をアクセントに～

**【室井つな子さん
日本特用林産振興会会長賞】**

大喝采！きのこの宴

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。

1 火災
山火事で受けた損害

2 風害
暴風による根返り、幹折れなどの損害

3 水害
豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害

4 雪害
大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害

5 干害
乾燥による枯死などの損害

6 凍害
凍結、寒風などによる枯死などの損害

7 潮害
潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害

8 噴火災
火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》
竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》
◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255㈹
または最寄りの森林組合

イワフジのGPシリーズ グラップルプロセッサ GP-35B

IWAFUJI INDUSTRIAL CO.,LTD.

製品情報

傾斜地に対応した全旋回チルトプロセッサ
- 最大38度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
- 全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
- サイドカッタ解除機能により曲がり材に対応
- 大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材
- GP-8コントローラを搭載
- 新開発のスタッドローラ(オプション)

For the future with forest

イワフジ工業株式会社

http://www.iwafuji.co.jp/

（仙台支店）〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央1丁目16-6
TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699
（本社・工場）岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1
（支　　店）札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中四国・九州

林業福島五月号 通巻第六九三号
令和四年五月一日発行
（毎月一回一日発行）
監修 福島県農林水産部
編集発行人 飯沼 隆宏
発行所 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島市中町五番十八号 県林業会館内
定価一一〇円（税込）
年間購読料一、九八〇円（税・送料込）

いざという時、あなたの備えは万全ですか？
福島ミドリ安全の防災対策
企業防災のご提案
保管スペースのご提案
災害時のゴミ対策

その日を恐れるのではなく、その日に備える

福島ミドリ安全株式会社
代表取締役社長 白石昇央
【本社】〒963−8550 福島県郡山市桑野4−1−22
TEL.024−923−5178・FAX.024−923−5211
E-mail info@f-midorianzen.co.jp

ZENOAH®
人と共に　緑と共に

For Professional

BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

ZHM1550RR

刈幅：1500mm 出力：27.5kW

SR3100

破砕径：200mm 出力：18.4kW

For Professional

GZ3950EZ
排気量 39.1cc
／
GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ハスクバーナ・ゼノア㈱ 福島県代理店
(有) うねめ林業機械
TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1